



脚本 星の子供達



karasuno10

[http://unohirotest.mydns
.jp/hiroshi/cgi/top.pl](http://unohirotest.mydns.jp/hiroshi/cgi/top.pl)

別れの
一瞬

星の
子供達

烏野
博史

人物

あいざわあきら
藍澤光 (37) 天文学者

あいざわそら
藍澤宙 (7) 小学生

かみやごろう
神谷五郎 (60) 藍澤の義父

コーチ

子供達

数人の乗客

① 藍澤家・リビング（夜）

パソコン机で手紙を読む藍澤光（37）。パソコンからベランダの望遠鏡へケールがひかれている。ソファークセットのソファで藍澤宙（7）が寝ている。藍澤、ソファークセットのテーブルに手紙を置き、ベランダに出て行く。寝ている宙。テーブルの上の手紙。手紙の内容、「国立天文台へのお誘い。藍澤光様。貴方の研究には大変驚かされました。理論の証明には超高精度の望遠鏡が必要だと考えられます。つきましては国立天文台ハワイ観測所で共に研究しませんか？」

② 阿寒湖畔スケート場・概観

雪の森の中のスケートリンク。宙と子供達がスピードスケートの服装で、スケートリンクの上に並ぶ。ピストル音。

③ 同・スケートリンク

宙と子供達が一斉に滑り出す。宙、ぐんぐん子供達をひき放していく。

藍澤とコーチがゴール地点でストップ
ウオッチを持って立っている。宙、ゴール地点を横切る。藍澤とコーチ、ストップウオッチのタイムを見る。コーチ、感嘆の声をあげる。藍澤、宙を見る。
リンク上を滑る宙、サングラスを外して藍澤を見る。宙、手を振る。
藍澤、宙に向かって手を振る。

④ 道（夕）

宙に抱えられた月の輪熊のぬいぐるみ。
藍澤の前を宙が意気揚々と歩いている。

藍澤「宙」

宙、ふりむき、首をかしげる。

⑤ 藍澤家・前（夜）

藍澤の表札

⑥ 藍澤家・宙の部屋（夜）

熊のぬいぐるみだらけの部屋。ベッドに座る藍澤と宙。宙の膝の上には月の輪熊のぬいぐるみ。藍澤は手に手紙を持っている。

藍澤 「お父さんが天体観測をしているのは知ってるだろ」

宙、うなづく。

藍澤 「見事、研究所に認めてもらえました」

藍澤、手紙を取り出す。

宙、拍手。

藍澤 「ありがとう。それで……一緒に研究し

ようって言われてるんだ」

宙 「すごい」

藍澤、うなづく。

藍澤 「その研究所にはとても大きな望遠鏡が

あってね。自由に使って良いですよって！」

宙 「良かったね！」

藍澤 「宙もすごいじゃないか。ちびの中での

才能はピカー。コーチも言ってたぞ10年に一人の逸材だって」

宙、頭を搔く。

藍澤、宙の肩を持つ。

藍澤「だから、宙とはしばらくお別れだ」

宙「え？」

藍澤「父さんはハワイの研究所に行く。宙は北海道でスケートの腕を磨く」

宙、眉を顰める。

藍澤「父さんは、才能ある者は、最もその才能を生かせる環境で才能を伸ばすべきだと考えている。わかるか？」

宙、ゆっくりうなづく。

宙「何時帰ってくるの？」

藍澤「わからない。長い間かかると思う」

宙「私は……」

宙、藍澤を伺い見る。

藍澤「スケートが好きか？」

宙、うなづく。

藍澤、宙の頭をなでる。

熊のぬいぐるみにめり込む宙の腕。

⑦ 同・ベランダ（夜）

宙が空を仰いでいる。ベランダの柵には宙と同じだけでかい望遠鏡が備えつけられている。

藍澤がリビングから出てくる。

藍澤「どうだ、大熊座はみつかったかい？」

宙、じっと空を見上げている。

宙「さつきパソコンで見たより少ないね」

藍澤「実際には見えているよりもたくさん星があるんだよ。とても小さな光なので見るのが難しいんだ」

藍澤、望遠鏡をのぞき込み、調整する。

藍澤「見てごらん」

藍澤、宙を持ち上げる。宙、望遠鏡をのぞきこむ。

宙「本当だ！ 実際にはある！」

藍澤「実際にはもっとももっとたくさん星があるんだ。もっと良い望遠鏡なら、もっと

深い宇宙が見れるんだ」

藍澤、宙を下ろす。宙、空を見上げる。

満月。風がうなる。

宙、じっと空を見つめる。

満月。風のうなりが大きくなっていく。

宙、目を見開く。

宙「（叫び声）」

宙、藍澤に抱きつく。音が止む。

藍澤「どうした？」

宙、かぶりをふる。

宙、顔を伏せたまま、眉を顰める。

宙「スケート、がんばるから」

光「ああ、期待しているよ」

光、宙の頭に手をおく。

⑧ バスの停留所

新千歳空港行きのバスの看板。

椅子に並んで座る藍澤と宙。藍澤の横

にはスーツケース。

藍澤、鼻をすすり、目の端をぬぐう。

藍澤「行くか」

宙、じつと藍澤を見つめる。

宙「……うん」

宙、椅子にダラリともたれかかる。

バスが停留所に停まる。

⑨ バスの中

藍澤と宙が並んで座っている。宙、号泣。数人の乗客が宙をいぶかしげに見ている。藍澤、窓の外を見ている。車窓から雪景色が見える。

⑩ 新千歳空港・ロータリー

新千歳空港の看板。

走るバスがロータリーに止まる。

⑪ 同・売店

トランクを引いた藍澤と宙が横切る。藍澤、立ち止まり店内に入っていく。レジに置かれるヒグマのぬいぐるみ。

藍澤の声「これ下さい」

レジの前に立つ藍澤、隣の宙に微笑みかける。宙、浮かない顔。

⑫ 同・ゲート前

藍澤と宙が向き合っている。宙の後ろには神谷五郎かみやごろう（60）が立っている。宙はヒグマのぬいぐるみを持っている。

藍澤は屈んでいる。

藍澤、宙の頭をなで、たちあがる。

藍澤「じゃあ……な」

藍澤、踵を返しゲートに向う。

宙「……嫌だ」

藍澤、振り向く。

宙、ぬいぐるみを床に捨てる。

藍澤、ぬいぐるみを拾う。

宙、両手を背中に隠し、被りをふる。

宙「いらない」

藍澤「どうして」

宙「だから、いかないで！」

藍澤「それはできない」

宙「（涙声で）何で!? 行って欲しくないって言ってるのに！」

藍澤「知ってるだろ。望遠鏡が——」

宙「うるさい。うるさい。うるさい。うるさい。うるさい。うるさい!! うざい！」

宙の頬を涙が伝う。

藍澤、頭を抱える。

藍澤「……何だよ。賛成じゃなかったのか？」

宙「違う！」

藍澤「何が」

藍澤、屈む。

藍澤「あのな——」

宙「うざい！」

宙、藍澤の鼻筋をなぐりつける。

藍澤、鼻を抑える。

藍澤「なにを——」

宙、涙をぼろぼろ流す。

宙「一緒に帰ろう!!」

藍澤の鼻から、鼻血がたれる。

藍澤「……駄目だ」

宙「何で!？」

藍澤「何でもだ」

宙「嫌！」

宙、藍澤の顔面めがけ拳をふりあげる。

藍澤、宙を抱きしめる。

宙、拳を下ろし、号泣。

藍澤「うちにある、望遠鏡なんかは自由に使

って良いからな……」

藍澤、立ち上がる。

宙、うつむいて泣く。

藍澤、仰いで泣く。

藍澤、神谷に深く頭を下げる。

藍澤「宙のこと、よろしくお願いします」

五郎、宙の両肩に手を置く。

神谷「ああ、俺も殴ってやりたい所だが……

たまには帰って来い！」

藍澤、ゲートに向かって歩き出す。

宙「お父さんの馬鹿あ！」

宙、ぬいぐるみを床にたたきつける。

著者HP：[鳥野の箱庭](#)

